

試験再行による收拾策動を粉碎し、拒否権貫徹・封鎖貫徹、教授会
自治解体！

2/17 全学生大会 全無期限スト体制を構築せよ

各学部で直接参加の斗争委員会を全力をもって組織せよ！

試験再行の強行等々、現実の危険
やいの為に死の一切の収束
策動を粉碎せよ！

封鎖を貫徹し、教授会自治の解体の唯一の道—拒否権を貫徹するが、大学当局の事態收拾路線に屈服するが、この案に現在の問題が関係している。評議会の医学部斗争に対する一切の引き延しは、実は、学生の施行的状態に試験に追いつくことによつて、斗争の圧迫を強めた。しかし、学生の実力阻止の前に、試験を一時的に延期せざるをえなかったが、現行の試験制度が、実はつめ込み、大暗記式制度であること、おなわち、学生の主体的参加を拒否した教授会自治の下での試験制度である。従つて、試験阻止はまさに現在の試験制度に対する拒否権の現実的策動である。今日大学当局は、学務委員会議を用ひ、その場で、拒否権を認めない事を前提にした19日なりの試験再行を意図統一を行ない、学生に対する国民政策川市大民主主義を再現せんとしている。そのような学生対策案を、学生と反対派研究者と、当局との思惑斗争の場になせよ。

24日学生大会で、拒否権貫徹、無期限スト体制を構築せよ、大学当局を打倒して、最終的なるべき収束を望みしめよ！

現在の封鎖斗争は、実は教養部を中心とする限られた大学当局の恐怖は部分的である。拒否権貫徹の一切の前提は、拒否権を担う斗争主体の形成にあるならば、従つて全学的な当局との緊張関係の中での斗争主体の確立が望み得しえな。

すでに無期限スト、診療拒否を闘っている医学部阿部野地区を全学的に普遍化する必要がある。我々は一切の收拾策動を粉碎し、学生大会で拒否権貫徹を教授会自治解体の具体的過程として位置づけ無期限スト体制を構築し、既製の制度そのものを機能マヒさせることによつて、学生の自主管理体制を創せよ。

封鎖及び切り拓いた、拒否権の主体を全面的に認識せよ！

現在の大学が、大衆化といわれる中堅階層者の養成機関化している。真に、総資本の志向する質の劣化者の養成過程として現代の教育があり、その故、幻想的共同体川市大民主主義に基く理念として、大学自治の下で現実には総資本に忠実な劣化者を送り出している。教育の自由は、真に自らが未来の劣化者として、どの様な質を獲得するのなという選択の自由を持つ学生が存在する故である。

拒否権貫徹・封鎖貫徹、大学当局の收拾策動粉碎！

統一会議 2/17

本

回

全国委

(準)

総決起集会

1時半 討堂